

サステナビリティ レポート

2022年版



サステナビリティ レポート2022

2022年版

本社
Permobil AB
Box 120
861 23 Timrå
Sweden

所在地住所:
Per Uddéns väg 20
Tel: +46 60 – 59 59 00
Fax: +46 60 – 57 52 50
www.permobil.com

表紙カバー: Mary Pedigo



目次

- | | |
|--|--|
| 04 Permobilの活動概要 | 24 従業員にとっての利点 |
| 07 最高経営責任者からのご挨拶 | 26 環境にとっての利点 |
| 08 サステナビリティに対する当社のアプローチ | 28 ケーススタディ: 気候への影響を
軽減するスマートソリューションパッケージ |
| 09 優先事項の設定方法 | 30 ビジネスとコミュニティにとっての利点 |
| 10 ケーススタディ: 私の能力 | 34 ケーススタディ: 草の根運動によるグリーン化 |
| 12 当社のビジネスモデル | 36 監査 |
| 14 当社のサステナビリティガバナンス | 37 リスク管理 |
| 15 サステナビリティに関するポリシーと規範 | 38 EUタクソノミー規制 |
| 16 重点領域 | 40 Permobilポートレート: Gabrielle Wright |
| 20 ユーザーにとっての利点 | |
| 22 Permobilポートレート:
UriとHelle Løvevild Golman | |

Permobil の概要

01

Permobilでは、当社の製品を使用する人々を第一に考えています。当社は、人々に革新を届け、障がいと共に生きる人々の生活を豊かにする高度なサポートのためのソリューションを生み出すことを目指しています。

02

この目標に向かって、当社の専門チームは新しい車いすを設計し、シートクッションをテストし、セラピストを支援する等、休むことなく努力を重ねています。

03

私たちの主な重点は、常に当社の製品とサービスを使うユーザーであり、ユーザーのニーズに最適なソリューションを提供することで自立を支援することです。

3大陸に 11生産拠点を展開

Permobilの製品は

50

か国に販売されています



18

か国の直販と
サービス拠点



1805

人の従業員が従事



年間製品販売台数

100万

台以上



当社の 事業 範囲：



電動車いす



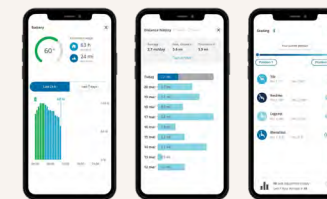
手動車いす



シーティング&
ポジショニング



パワーアシスト



ソフトウェアとサービス



最高経営責任者からのご挨拶

複雑なリハビリ技術のグローバルリーダーとして、私たちは持続可能な社会に向けて積極的に取り組み、支援しています。私たちのサステナビリティへの重点は、常に私たちの価値観、働き方、ビジネスモデルに組み込まれてきました。

Permobilは、誰もが充実した生活を送り、可能性を最大限に引き出すことを望んでいます。Permobilのサステナビリティに対する最大の貢献は、社会におけるインクルージョンの分野であると考えています。私たちは、障がいを持つ人々が、テクノロジーの欠如によって制限されることなく、やりたいことを成し遂げることを可能にする製品とサービスを提供します。

過去2年間、当社は、運動障害を持つ人々の生活の質を理解し、測定することに取り組んできました。このテーマはPermobilの心臓部でありながら、サステナビリティを考慮するとき見落とされがちです。生活の質の測定は、ほとんどの場合、健常者に対してベンチマークされています。

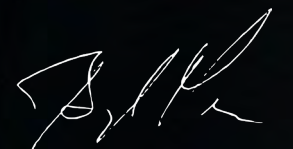
現在、Permobilの重点は、CO₂排出量の削減と気候への影響に置かれています。当社は野心的な目標を設定し、2022年には省エネプログラムと持続可能な慣行を実施しました。この施策は2023年も継続されます。特に、当社のスウェーデンの新しい製造拠点は、二酸化炭素排出量を最小限に抑えるよう設計され、2024年に稼働が開始される予定です。

排出量目標の達成は長期的な取り組みであることは**理解**していますが、当社は現在すでに大きな前進を遂げています。

今後、当社のサステナビリティの取り組みと報告は、CSRに関する新しい EU 指令により大きな変貌を遂げる予定です。新しい指令の観点から、2023年には新しいマテリアリティ(重要課題)の評価を実施し、それに応じて重点分野とKPIを再検討します。

当レポートでは、当社製品を使用する方々を中心に据えました。このレポートで使用されている画像は、すべて個人(または家族・友人)がソーシャルメディアに投稿した写真です。これは、彼らの生活を描写するものです。

サステナビリティに関しては、Permobilが誇りに思うことはたくさんあります。私たちは、このエネルギーを利用して将来に向けて前進します。



Bengt Thorsson、
最高経営責任者

サステナビリティに対する 当社のアプローチ

当社はグローバル企業として、持続可能で責任ある事業運営に尽力しています。私たちは、当社の製品ユーザー、社会、従業員、環境に対する義務を理解しています。

改善のために、サステナビリティの4つの柱に基づく以下のような長期的なコミットメントを策定しました。

Permobilは、長年、最低限をはるかに超える法定基準を満たしてきました。2016年以降、国連グローバル・コンパクトのメンバーとして、10原則の実施について毎年報告しています。さらに、Permobilのオーナーである Investor AB が保有企業に課しているサステナビリティに関する要件にも従っています。

優先事項 の設定方法

私たちは2019年に最初のマテリアリティ分析を実施し、サステナビリティを重点とした事項を確立しました。欧州連合の次の企業社会的責任報告指令を満たすために、2023年後半には新しいマテリアリティ評価が行われます。



01

ユーザーにとっての利点

ユーザーの**生活の質**を向上させ、最高水準の製品サービス、品質、安全性を確保する

02

従業員にとっての利点

ダイバーシティとインクルージョンを特徴とする安全で尊重される職場を構築する

03

環境にとっての利点

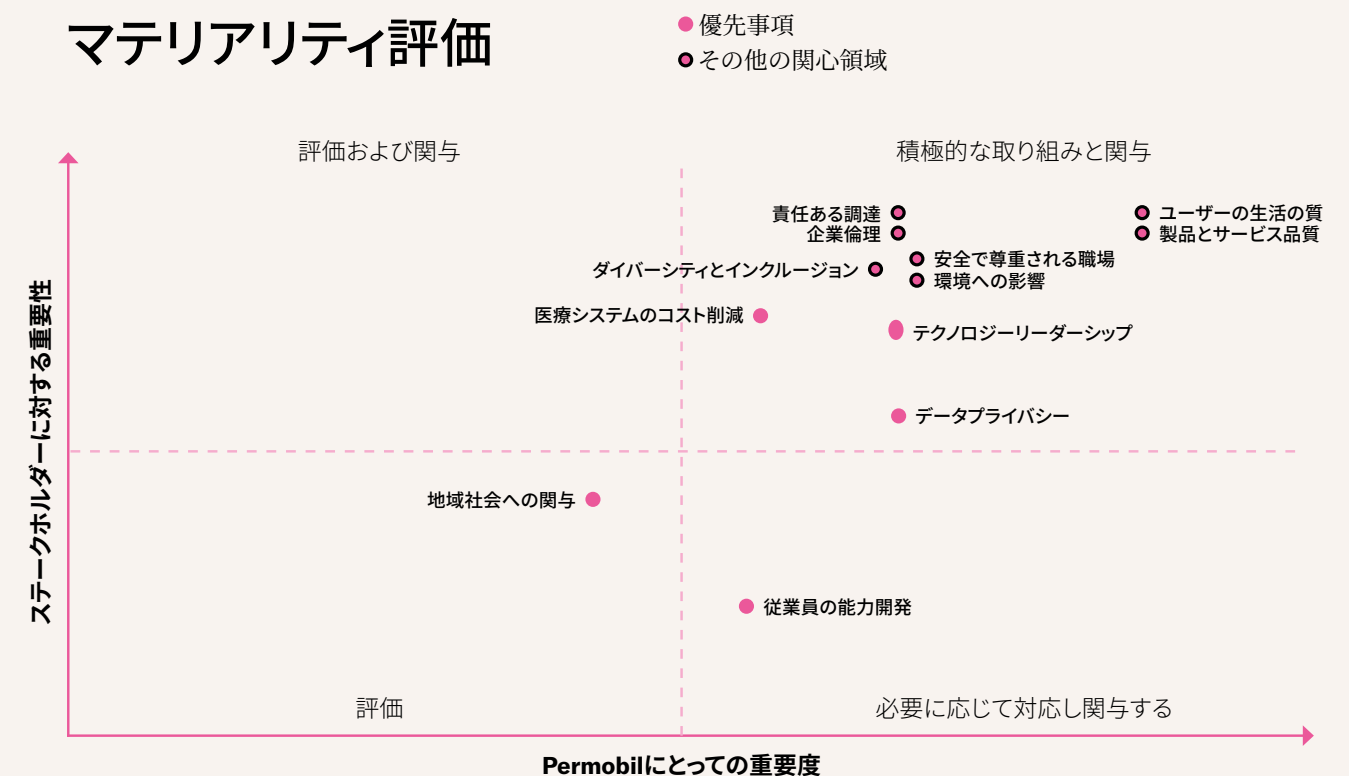
影響を最小限に抑える

04

ビジネスとコミュニティにとっての利点

強力な企業倫理と責任ある調達

マテリアリティ評価



また、当社の優先事項を定義するにあたり、当社のオーナーである Investor AB が策定した要件も考慮し、当社の優先事項が Permobil のユーザーファースト、リーダーシップ、信頼、情熱というコアバリューと国連のグローバル・コンパクトを支持することを確実にしました。

私たちは、持続可能な開発に貢献できると当社が判断した7つの重点分野を特定し、それぞれについて目標と関連する行動を定義しました。→

- 01 ユーザーの生活の質
- 02 製品とサービスの品質と安全性
- 03 安全で尊重される職場
- 04 ダイバーシティとインクルージョン
- 05 環境への影響
- 06 倫理的なビジネス
- 07 責任ある調達



本コレクションの副題、「心配しないで、私がスロープを用意するから」はDesigners' Nestコンペティションへの返答です。

2018年、コペンハーゲンファッションウィークで車いすに乗ったモデルが私のコレクションを披露するという私の提案は拒絶されました。主催者は、スロープを建設する余裕がないと主張したのです」。

ファッションデザイナー、Louise Linderoth

ケーススタディ： 私の能力

ファッションデザイナー、Louise Linderothとの**コラボレーションを通じて**、Permobilはすべての人々の可能性を見出すために、否定的な態度に挑戦し人々にインスピレーションを与えています。この取り組みは、ダイバーシティとインクルージョンが重要である理由を押し進めています。

Louiseは、ファッション業界における車いすユーザーへの配慮を促し、ファッションは見る者ではなく、着る者に関することであるという信念を強化するためにファッションブランド、Lou Dehrotを立ち上げました。

2022年5月のPermobilとの最初のコラボレーションは、Louiseのメッセージ「私の能力はあなたの仮定に基づくものではない」を中心とし、人々は第一印象ではなく、誰であるかによって定義されるべきであるという基本原則を強調しています。

このプロジェクトでは、独自のストーリーを語るスウェーデン、デンマーク、ドイツ、オランダのロールモデルたちに注目が集まりました。これに続いてLouiseは、9月のストックホルムファッションウィークで卒業コレクション「誰のいす? (ご心配なく、私がスロープを持っています)」を披露しました。

このコレクションのベースとなったのは、手動車いすユーザーの座位に再構築された中古のスーツでした。このショーは、ストックホルムファッションウィークで車椅子のモデルのみを使用した唯一のショーでした。このコレクションのメッセージは明確です。ファッション産業に車いすユーザーを含むことです。



当社のビジネスモデル

イノベーションは私たちのDNAです。創設者である Per Uddén 博士はこの会社をガレージで設立しましたが、そのイノベーションの精神は今日も変わりません。Permobilファミリーの全社の背景にあるストーリーも同様です。

障がいを持つ人々により良い生活を提供するという夢を追求した創業者のコミットメントが、最高級の製品を生み出しました。現在では、当社の製品を使用する人々の生活の質の向上に役立つイノベーションを追求し、設計と技術の限界を押し広げています。

コラボレーション

Permobilは、バリューチェーン全体で、患者組織、医療システム、政府当局、サプライヤー、パートナーなど、さまざまなステークホルダーと緊密に連携しています。これは、当社のガバナンス構造と相まって、当社のサステナビリティの取り組みを前進させる原動力となっています。



研究開発

すべては研究開発チームから始まります。彼らは、安全性に重点を置く人々のためにイノベーションに継続的に取り組んでいます。また、当社のソリューションによる影響を軽減するよう努めています。



調達

私たちは、さまざまなサプライヤーから高品質の材料と部品を調達しています。環境と社会への影響を認識し、責任ある調達を通じて継続的に改善に取り組んでいます。



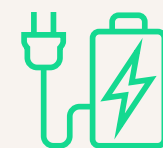
製造

6か国に11生産拠点があります。地域社会に対する環境的および社会的影響を監視および評価しています。当社の直接的なCO₂排出量は、主に天然ガスの使用によるものです。



ロジスティクスと梱包

これらの分野は、当社の製品を提供する上で極めて重要ですが、気候に影響を与えます。輸送や梱包材料の使用量を削減するために、この分野を完全に理解することに努めています。



製品の使用

当社の製品やソリューションの中にはバッテリーを使用しているものがあり、充電はエネルギー使用により気候に影響を与えます。この段階に影響を与える能力は、製品開発だけでなく、バッテリー技術などPermobil以外のイノベーションにも依存しています。



サービス

適切な種類のサービスを適切な時期に実施することは、製品の寿命を延ばすことでユーザーの生活の質、そして気候にも影響を与えます。



寿命の終了/リサイクル

気候への影響を軽減するために、当社は製品寿命の延長、改修、リサイクルなどのオプションを模索しています。

私たちのサステナビリティ ガバナンス

Permobilは高い**倫理基準**、法律および規制の遵守、当社の戦略とビジョンに沿う納品のために、サステナビリティのガバナンスの枠組みに従っています。

この枠組みは、ポリシー、手順、規範およびプロセスで構成されています。ポリシーの枠組みは取締役会が決定します。

サステナビリティ分野のガバナンスは、当社の一般的なガバナンス構造に従います。取締役会、グループ管理職、およびサステナビリティに関するその他の管理職のそれぞれの役割と責任は、以下に説明されています。



取締役会

当社の取締役会は、Permobilにおける持続可能な開発の方向性を定め、ポリシーの枠組みを決定します。

また、取締役会は、総合的な全社リスクマネジメント(ERM)プロセスの一部としてサステナビリティリスクを特定・管理する方法と、これらのリスクを管理するために実施された措置を監視します。

グループ管理職

グループ管理職チームは、当社の優先事項を定義し、戦略に従って達成するサステナビリティ目標を設定する責任があります。また、チームはサステナビリティ枠組み内のポリシーのほとんどを見直し、承認します。

サステナビリティ担当ディレクター

サステナビリティ担当ディレクターは、特定の重点分野と優先事項の実施を主導する責任があります。また、サステナブルロードマップで地域やグローバルグループ機能を支援しています。

関連部門は、実施と目標値の達成に責任を負います。この仕組みにより、目標達成に最も大きな影響を及ぼす従業員が目標の責任者となります。

連帯責任

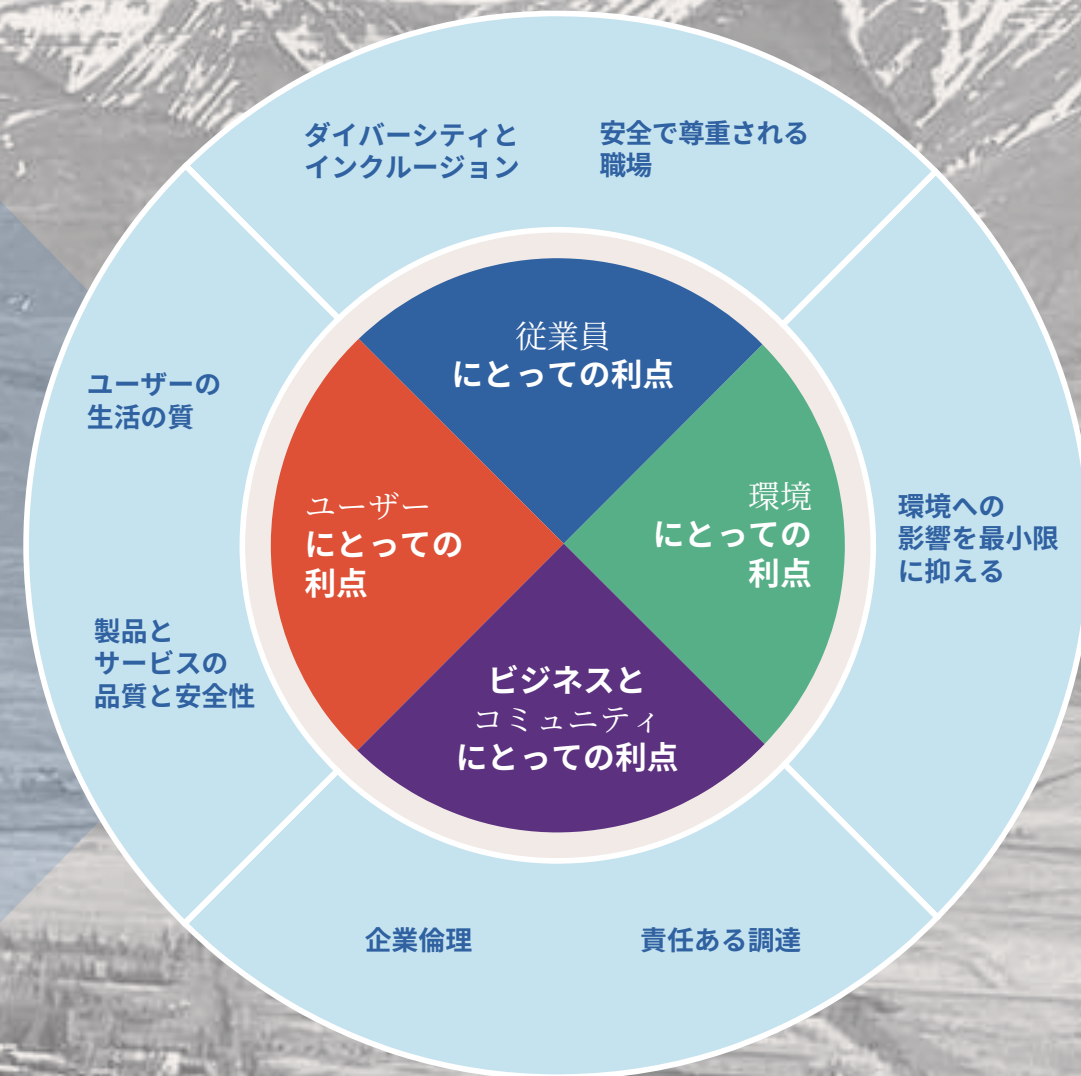
サステナビリティは、日々の業務のあらゆる側面を通して統合されています。計画、開始、継続的改善は当社のDNAの一部です。当社は、ユーザー、ステークホルダー、そして社会全体に提供する経済的、環境的、社会的利益を最大化するため、Permobilの全従業員がサステナビリティに責任を負うべきであると考えています。

サステナビリティに関する ポリシー および手順

Daniel "Little Zaint" Zeino

ポリシーと手順	以下のリスク に対処します	監視
- 行動規範 - 腐敗および贈収賄防止に関するポリシー - 競争法に関するポリシー - 貿易コンプライアンスポリシー - 内部通報ポリシー	- 人権 - 労働者の権利 - 差別 - 腐敗行為および贈収賄 - 第三者による不正行為 - 輸出規制 / 貿易制裁	- 外部通報チャンネル - 取締役会への報告結果
サステナビリティに関するポリシー	- 空気および水への排出 - 水の使用量 - 廃棄物 - 資源の使用(エネルギー、化学薬品、危険物) - ダイバーシティとインクルージョン	- 四半期毎の業績報告(水、廃棄物、エネルギー使用量) - インクルージョンに関する従業員アンケートのフォローアップ
サプライヤー行動規範	- 人権 - 労働者の権利 - 環境 - 腐敗行為と贈収賄 - 紛争鉱物	- 内部アセスメント - 毎年の自己評価 - 年次報告書
健康と安全に関するポリシー	職場の健康とリスク	KPI、インシデント、行動に関する議論のグループ管理職への月次報告

重点領域



ユーザー にとっての利点

ユーザーの 生活の質

- | | |
|-------------------------|---|
| 目標: | 実績: |
| ・ 2023年に適切な
対策をさらに検討 | ・ 文化的要因の影響
に対処するための
MoBQoL-7Dの検証
済みのコンバーター |

製品とサービスの品 質と安全性

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 目標: | 実績: |
| ・ 1か月後の顧客保証
クレームゼロ | ・ 追跡された全製品
ラインで0.94% |

従業員 にとっての利点

安全で尊重される 職場

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 目標: | 実績: |
| ・ 休業時間を伴う
災害ゼロ | ・ 4件の休業時間を
伴う災害 |

ダイバーシティとイン クルージョン

- | | |
|------------------------------------|-----------------------------------|
| 目標: | 実績: |
| ・ 職場の男女比6:4 | ・ グループ管理職:
男女比44:56 |
| ・ 従業員インクルー
ジョン評価8/10 | ・ 従業員インクルー
ジョン評価67% |
| ・ 2022年に職場のアク
セシビリティ目標を
設定する | ・ 職場のアクセシビリ
ティ目標が設定されて
いません |

環境 にとっての利点

環境への影響

- | | |
|-----------------------------------|-----------------------|
| 目標: | 実績: |
| ・ スコープ1および2:
2030年までに70%
削減 | ・ スコープ1および2:
44%削減 |
| ・ スコープ3:2030年
までに20%削減 | ・ スコープ3:ベー
スラインを確立 |

ビジネスと コミュニティ にとっての利点

倫理的なビジネス

- | | |
|--|--------------------------|
| 目標: | 実績: |
| ・ 全スタッフの90%が
当社の年次行動規
範トレーニングを
受講 | ・ 全スタッフの98%が
トレーニング済み |

責任ある調達

- | | |
|---|--|
| 目標: | 実績: |
| ・ サプライチェーンの
98%がPermobilのサ
プライヤー行動規範
に賛同する | ・ 100%.87%がサプラ
イヤー行動規範に直
接署名し、残りは当
社の取引条件を通し
て間接的に署名した |
| ・ 高リスクサプラ
イヤーの100%をスク
リーニング | ・ 高リスクサプライヤー
の85%をスクリーニ
ング |
| ・ 中リスクサプラ
イヤーの20%をスク
リーニング | ・ 中リスクサプライヤー
の20%をスクリーニ
ング |



ユーザー にとっての利点

ユーザーの生活の質

Permobilの目的は、個人の変革です。この目的を達成するための最重要課題は、ユーザーがより良い生活を送れるよう、当社の製品とサービスを継続的に改善することです。

目標

- 生活の質のためのKPIを定義する

実績

- 文化的要因の影響に対処するためのMoBQoL-7Dの検証済みのコンバーター。

当社のアプローチ

Permobilでは、車いすやその他のソリューションが、車いすを使用する人々の生活の質に与える影響を明確化しようと試みています。

人々の生活の質(QoL)への影響を理解することで、既存のソリューションの継続的な改善を確保し、ユーザーのニーズにより良く適合する新しい製品やサービスの開発を可能にしたいと私たちは考えています。

2020年以来、当社は人々の生活の質を測定する多くの方法を模索してきました。一般的に使用されるQoL転帰尺度には、寝たきりから歩行にわたる、健常者の視点からのモビリティが含まれるため、私たちの要件には適していません。

2021年以来、Permobilは、ウェールズのバンゴー大学とモビリティ関連の生活の質7D(MobQoL-7D)に関するコラボレーションを行ってきました。

2022年に私たちが行ったこと

QoLの定義は、文化的要因などによって国ごとに異なります。そのため、英国の定義だけを使用することで、QoLに対するKPIを設定し進捗状況を追跡する能力が制限されます。

これに対処するために、バンゴーチームは英国向けにMobQoL-7DをQALY(定評あるQoL測定)に変換することを検証しています。当社は、他国でのさらなる検証を可能にし、調査参加者の範囲を拡大するために、アンケートを英語以外の7言語に翻訳することで支援を行いました。

2023年の計画

MobQoL-7D QALYの検証はオランダから始まり、現地パートナーと協力して行います。検証後、弊社製品のユーザーに対する影響を深く理解するため、現地調査を実施します。

製品とサービスの品質と安全性

目標

- 1か月後の顧客保証クレームゼロ

実績

- 2022:追跡対象の全製品ラインで0.94%
(2021年:1.17%、2020年:1.67%)

当社のアプローチ

Permobilは、車いすやその他の製品を使用する人々への約束を守ることに情熱を注いでいます。それは、製品を受け取る人々に喜びをもたらすことを意味します。そのため、当社は納品後30日以内の顧客クレームをゼロにするという野心的な目標を設定しました。できるだけ迅速にクレームを減らすために、ユーザーのフィードバックを収集して継続的に分析することにより、問題から学び、解決するようにしています。

2022年に私たちが行ったこと

18の市場で事業を展開するグローバル企業として、当社は常に各市場のニーズに合わせて顧客サポートプロセスをカスタマイズしてきました。2021年には、顧客クレームを把握し、そこから学ぶための一貫したシステムとプロセスを導入しました。

2022年には、この努力を積み重ね、実績を改善し続けました。これまで、製品ごとの問題のさまざまな根本原因を特定してきました。一部の製品ラインでは、注文ミスが保証クレームの原因となる場合があるため、システムを自動化する複数年のプロジェクトを導入しました。

ROHO製品の最小返品数も環境に利益をもたらします。当社は年間30万個以上の製品を販売しているため、返品を減らすことで梱包や出荷を最小限に抑えることができます。市場とその組織の複雑さを考慮し、市場ごとに異なる目標を維持することを決定しました。当社のシステムとプロセスが成熟するにつれ、当社は納品後1か月以内保証クレームゼロという、単一のグローバル目標の達成に向けて前進できるものと予想しています。

2023年の計画

特に最初の1か月間は、ユーザーが問題を発見した製品数の削減に引き続き取り組んでいきます。私たちは個々の問題をより迅速に解決して根本原因を特定し、製品寿命を延長するために、より良いデータおよびより良いユーザーフィードバックを収集するべく尽力しています。

2023年には、新しいマテリアリティアセスメントを実施し、サービスの質を含める実現可能性を考慮します。



Antonio Auricchio



Permobil ポートレート： UriとHelle Løvevild Golman

2023年2月のインタビュー

Uriのストーリーは愛と人間性に関するものです。彼がワイルドな雌ライオンと呼ぶ妻、Helleとそしてこの世界の自然の驚異への愛。人生を変える事故以降、彼に感動を与えた友人や家族、その他の人々の人間性、そして彼に怪我と障がいを負わせた責任者を含める人々に対する衰えることのない人間性のストーリー。

UriとHelle はいつもとてもポジティブでした。そのポジティブさは、彼らが世界中で撮影した野生動物の写真にも見ることができます。ふたりは、欠けた牙や貧弱な毛皮ではない、いつも最高の自分らしさを持ったアンテロープからコウモリ、チーターなどを被写体として選んでいました。

ナショナルジオグラフィックの野生生物フォトグラファーとして、彼らの作品は何百万人もの人々に達しましたが、彼らはレンズを通して見た自然界を記録し、保存したいと考えていました。プロジェクトワイルドは 25 か国の写真撮影ツアーとしてス

タートしましたが、彼らが登録した「Wild Nature Foundation」財団を通してプロジェクトに資金を調達することで、この有意義な仕事は永続的に続くことになりました。

2017年にガボンで場所を探していたとき、UriとHelleは市場の中心でナイフを持つ男性から攻撃を受けました。Uriの勇敢で迅速な思考は、自分たちと第三者の両方を救いました。しかし、そのときに受けた怪我とその後の不十分な治療のために、彼の動きや発話能力に深刻な支障が残りました。

デンマークのリハビリ診療所で2年間過ごした頃、治療の効果が始まったため、Uriはコペンハーゲンの郊外にある自宅に帰ることができました。Uriは補助なしで200メートル歩くことができましたが、脊椎手術の合併症によりその進歩は途絶えてしまいました。

Uriは絶望や怒りを感じる時もありましたが、愛だけが彼を前進させることに気が付きました。

Uriは、暖かくなったら、新しいPermobil電動チェアのリクライニング機能を試すことを楽しみにしています。外に出て、横になり、かつての日々ように空を眺めようと計画しています。Uriは首にあたる草の感覚や指先の土を経験できないかもしれませんが、Helleと共に空に浮かぶ雲や夜空にきらめく星々と一緒に見つめることができます。



従業員 にとっての利点

安全で尊重される職場

Permobilでは、すべての従業員にとって良好な労働環境を備えた安全で健康的な職場づくりに取り組んでいます。

私たちは、やるべきことが他にもあることを認識しています。当社は、報告で特定された問題に対処するために積極的に努力しており、常に改善の方法を模索しています。

目標

- ・ 休業時間を伴う災害ゼロ

実績

- ・ 4件の休業時間を伴う災害 (2021年:18)

当社のアプローチ

従業員が肉体的および精神的に安全だと感じる環境整備が最優先事項です。当社は職場での事故を最小限に抑えるとともに、全従業員に安全と福祉をもたらす強固な文化を奨励しています。

当社の重要業績評価指標は、休業時間を伴う災害(従業員が仕事を休むほど重大な事故)に関するものです。休業時間を伴う災害を削減し、報告を改善するために、いくつかの対策に投資し導入してきました。

これらには以下のようなものがあります。

- ・ 危険およびインシデントの正式なデータ取得
- ・ 重要業績評価指標 (KPI) の見直し
- ・ 報告により特定された重点分野に取り組むための行動計画
- ・ 正しい行動とベストプラクティスについての意識を高めるために、管理職と一般従業員との間で継続的に話し合う

2022年に私たちが行ったこと

2022年、当社は安全記録の強化に重点を置いていました。引き続きグローバル報告システムを導入し、事故、インシデント、行動に関する議論、観察事項の報告を増やしました。報告システム導入後の事故件数の増加は、未報告のインシデントが減少している兆候と見なされています。病欠を伴う事故の数は、安全記録の強化の結果、減少しています。休業時間を伴う災害は転倒、手作業、切り傷などが原因でした。

2023年の計画

私たちは、事故件数の削減に努めながら、高い安全性に重点を置き続けます。

	休業時間を伴う 災害 (LTA)	総合事故 発生率 (TCIR)
2020	11	0.63
2021	18	1.06
2022	4	0.22

ダイバーシティとインクルージョン

私たちは、ダイバーシティとインクルージョンの文化を育むことが、当社の価値観の実践、目的の達成、および行動規範の遵守に向けた正しい行動であると信じています。

Let's Talk年次調査は、毎年全従業員に送付されました。この数年間、ダイバーシティとインクルージョンに関する前向きな変化が続いていますが、2022年、インクルージョン指標は1パーセント減少し、67%となりました。

数年間の急速な成長後、あらゆるレベルの社内のコミュニケーションと対話を強化し、Permobilの共通のアイデンティティを構築するために、近年多くの取り組みが行われています。私たちは、従業員が受け入れられていると感じられるよう、この取り組みを継続します。

2023年の計画

従業員の認識を理解・評価し、必要な行動を特定するためにLet's Talkを使い続けます。

応募者プールが多様であることの確認を含めて、当社のダイバーシティとインクルージョン目標をサポートするために、人事プロセスと人材管理慣行を見直します。

新しいマテリアリティアセスメントを実施し、また当社サイトの既存の調査データを使用して職場のアクセシビリティを測定する方法を検討します。

当社のアプローチ

私たちは、誰であろうと、すべてのスタッフにとって利用しやすい職場作りに努めています。当社のミッションは、従業員が差別を受けたと感じることがなく、常に仕事に全力を尽くせる環境を整備することです。

ダイバーシティとインクルージョンは、チームの福祉と幸福のために不可欠であるだけでなく、会社としての生産性と成功にも欠かせません。多様なグループは、均質なグループよりも優れた意思決定を行い、両性のバランスが取れているチームの方が優れたパフォーマンスを発揮します。障がいを持つ従業員がいることは、顧客をより良く理解するのに役立ちます。

従業員アンケート — Let's Talk — の報告を使用して、従業員全体におけるダイバーシティとインクルージョンに関する問題を確認および対処します。これには3つの重要な行動分野があります。

- ・ 職場のアクセシビリティ
- ・ インクルージョンに関する従業員の認識
- ・ 人事プロセス

2022年に私たちが行ったこと

グループ管理職レベルの女性の割合を増やし、目標を超えました。





環境 にとっての利点

環境への影響

目標

- **スコープ1と2**: 2030年までに70%削減 (2018年ベースライン比)
- **スコープ3**: 2030年までに20%削減 (2019年ベースライン比)

実績

- **スコープ1および2**: 2018年から44%削減
- **スコープ3**: 限られたカテゴリーの排出量のデータを取得し始めました。次のステップは、より多くのカテゴリーの排出量を計算し、消費ベースのデータをより詳細なデータに置き換えることです。

温室効果ガスプロトコルで定義されたスコープ1は、所有または管理する供給源からの直接排出量を対象としています。スコープ2は、電気、蒸気、加熱、冷却の購入と使用からの間接排出量を対象としています。スコープ3は、組織の上流と下流の活動で発生するその他のすべての間接排出量が含まれます。

当社のアプローチ

当社は世界18か国に営業拠点を有し、年間数十万もの品目を生産しています。このため、私たちはPermobilが地球環境に影響を与えていることを認識しています。私たちは当社が与える影響に責任を持ち、その影響を最小限に抑えるよう努力しています。2030年のスコープ1、2、3の排出量について野心的な目標を設定しました。

多くの施設で既に省エネと持続可能な慣行が実施されており、2022年には水やエネルギーの使用、廃棄物の発生量などの環境パフォーマンスを四半期ごとに報告しています。

2022年に私たちが行ったこと

グリーン電力証書(REC)の購入に加えて、Permobilで最もエネルギー集約的なプラントである、米国の拠点で再生可能エネルギーへの転換方法を模索し続けています。この取り組みは2023年も続きます。

体系的な環境活動の開発を続けました。地域の事業体が気候変動目標の達成にどのように貢献できるかを調査するために、Permobilが活動するさまざまな地域のリーダーシップチームとワークショップを実施しました。

ノルウェーでの事業は、2021年に開始されたプロセスを終えた結果、同年にISO 14001 認証を取得しました。年度中の重点分野は、排出量計算の質と範囲を確認することでした。その結果、過去の不正確さが修正される結果となりました。このレポートおよび今後のレポートは、修正済みの過去の排出データを参照します。

また、企業買収の成果として、気候データ(基本年度を含む)の調整方法に関する方針も採用しました。基本年度、2018年のスコープ1と2および2021年を含むそれまでのすべての年のスコープ1と2 が再計算されました。

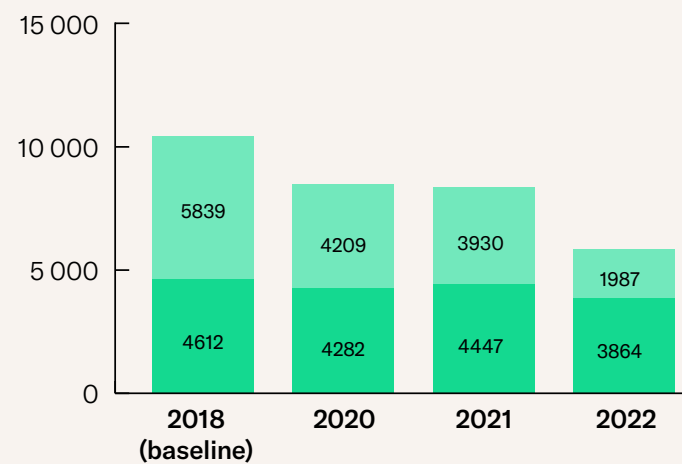
スコープ3の排出量データの一部を取得できるようになり、この取り組みは 2023年も続きます。

炭素排出量 (CO₂e)

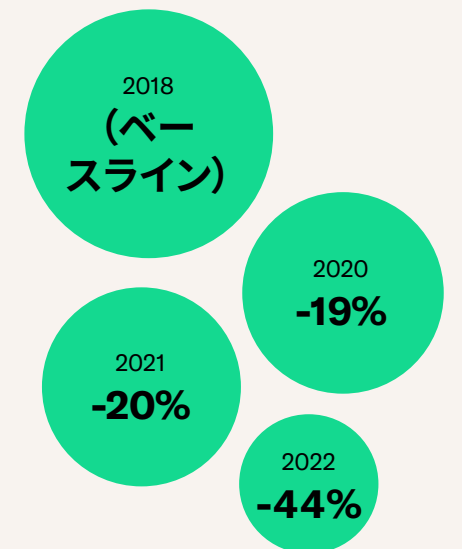
Permobilによって生成されたスコープ1および2(CO₂e)の排出量

■ スコープ2*
■ スコープ1

ベースラインと比較したときの変化
(スコープ1 と2)、%



* スコープ2 は、市場ベースの排出量を使用して計算されます



2018年のベースライン排出量

スコープ1 スコープ2 スコープ3
消費評価に基づく

4612 tn

5839 tn

173 625 tn

スコープ3 の分類:

- p 購入品 / サービス 77%
- p 資本財 5%
- p 燃料 / エネルギー関連活動 1%
- p 輸送 / 流通(上流) 6%
- p 出張 2%
- p 従業員の通勤 1%
- その他 8%



総合的に、これらの高度なパッケージ設計プロジェクトは、**2022年だけでもCO₂排出量を460メートルトン以上削減**しました。これは、毎年97台の自動車を道路から取り除き、輸送コストを削減することに相当します。**Permobil**は、環境への影響とコストを最適化するサプライチェーンソリューションを見出し、気候危機に取り組む上でコラボレーションが重要であることを示してくれた**Nefab**に大いに感謝いたします。

ケーススタディ： 気候への影響を 軽減するスマート パッケージソリューション

改善された梱包と出荷ソリューションは、使用材料の量とCO₂排出量を削減するための効果的な方法であり、コスト削減にもつながります。2022年には、設計、開発、計画の慎重な期間を経て、多くのプロジェクトがオンラインに登場しました。

Box-in-Box (BiB)ソリューションは、電動車いすのバッテリーボックスが、中国の昆山生産施設からスウェーデンのティムラと米国のナッシュビルを生産現場に輸送される方法を見直しました。現在、当社は組み立てプロセ

スを再考し、複数のコンポーネントを1つのパレットで輸送することで、輸送コンテナと保管スペースを最大限に活用できるようにしました。

SPOT

SPOTプロジェクト「持続可能な梱包の最適化と輸送」では、電動車いすのコンポーネントに使用するパッケージの変更に焦点を当てました。このプロジェクトは、当社の昆山施設で製造される電動車いすのコンポーネントの約80%に影響を与えます。これは、すべての段ボール梱包をカスタマイ

ズし、木製パレットを合板に置き換えるなど、梱包全体の見直しにつながりました。

もう一つのパッケージソリューションは、最も一般的な高速移動コンポーネントを優先しました。コンポーネントを輸送する際に、箱の中に空きスペースが残らないように、より柔軟なモジュールシステムを採用しました。これにより、積荷、開梱、保管、さらには廃棄物管理の効率が向上しています。



ビジネスと コミュニティ についての利点

倫理的なビジネス

私たちは、バリューチェーン、顧客、サプライヤー、当社の企業としての慣行、これらすべてに持続可能で倫理的な開発を推進したいと考えています。私たちは、協調的な文化およびサプライヤーとの健全でオープンな対話を創出し、より良い、より安全で、より幸せな社会を支援するべく前進していきます。

目標

- 全スタッフの90%が当社の年次行動規範トレーニングを受講

実績

- 2022:98%

当社のアプローチ

Permobilの従業員行動規範は、倫理的なビジネスを定義し、確保するための重要なツールのひとつです。本規範は、ダイバーシティと差別禁止、人権、安全衛生、文化、顧客との関係、機密保持、贈収賄と汚職防止、利益相反、発言、競争、貿易制限、環境保護について取り上げています。

行動規範トレーニングは、すべての従業員に必須です。スタッフの離職率を7%と想定しているため、目標は90%に設定されています。また、買収に伴って事業が成長するにつれて、Permobilファミリーの新しいメンバーは、行動規範トレーニングの修了を求められます。Permobilには内部通報ホットラインがあり、従業員やその他の利害関係者が現地の言語で懸念を報告することができます。懸念の報告は、Permobilの人事および法務チームと適宜密接に連携する外部サービスによって審査されます。

2022年に私たちが行ったこと

行動規範研修を受けた従業員の割合は、92% (2021年) から98%に増加しました。私たちは、社内コミュニケーションチャネルを通して行動規範をより重点的に周知しました。また、Permobil導入プログラムに行動規範研修を導入しました。

2023年の計画

今後は、行動規範研修の年次展開を継続し、当社のコアバリューである、ユーザーファースト、リーダーシップ、情熱、信頼に関する社内知識を深めていきます。

Centra “Cece” Mazyck

Permobil財団

Permobil財団 (米国) は、製品の寄付、障がい組織とのパートナーシップ、大学奨学金、地域社会におけるボランティア活動を通じて、貴重なサポートと支援を提供しています。

2017年に米国で開設されたPermobil財団は、モビリティニーズのある約4,000人の人々を支援してきました。

2022年には、18台の車いす、991台のシートエレベーター、191台の他の車いすの部品、および8台のSmartDriveの寄付を行い、1,000人以上の人々を支援しました。

さらに、今年の奨学金プログラムは、車いす使用者に6つの大学奨学金を授与し、財団は182の障がい者非営利団体を支援しました。

財団は資金を調達し、車いすのクリニックを運営し、無料の車いすサービスを提供したほか、Permobilの従業員が非営利団体のイベントでボランティア活動に参加しました。ALS協会の主力イベントである「Walk to Defeat」資金調達に参加したのは、Permobilの400名の従業員でした。



責任ある調達

目標

- サプライチェーンの98%がサプライヤー行動規範に賛同する
- 高リスクサプライヤーの100%をスクリーニングした
- 中リスクサプライヤーの20%をスクリーニングした

実績

- 89%がサプライヤー行動規範に直接署名し、さらに13%が当社の契約条件を通じて間接的に承諾しました(2021:89%と9%)
- 高リスクサプライヤーの85%をスクリーニング(2021年:89%)
- 中リスクサプライヤーの20%をスクリーニング(2021年18%)

当社のアプローチ

当社は、サプライヤーが当社とともに社会的責任のアンバサダーとなるよう、力を与えることができると信じています。当社にとって、すべてのサプライヤーは強固でポジティブな関係を築くべきパートナーです。この絆を通して、私たちは社会にとって正しいことを行うために協力することができます。

Permobilは、サプライチェーンのあらゆる段階で、高い水準の責任ある調達を確保するための堅牢なフレームワークを有しています。まず、すべての新規サプライヤーが署名しなければならない行動規範があります。これには、ダイバーシティや差別禁止、人権、顧客との関係、賄賂防止、汚職防止などの分野が含まれています。また、材料の調達プロセスを改善するために、紛争鉱物に関する透明性も要求しています。すべてのサプライヤーは、国際労働機関の基準に従って業務を行っていることを示す必要があります。

当社は、制裁リストに掲載されている国と決して取引しません。当社は、高リスクおよび中リスクのサプライヤーを審査し、そのサステナビリティのリスクを評価しています。これらは、汚職リスクが高い国のサプライヤー、または金属や化学物質など、環境への負荷が高い材料を供給するサプライヤーである可能性があります。当社では、すべてのサプライヤーに3年ごとの自己評価を実施するよう求めており、サプライヤーと密接に協力して是正措置を講じています。

サプライヤーとの関係において、環境要因は極めて重要です。当社は、すべてのパートナーが最高の環境・サステナビリティ基準を維持し、規制を確実に遵守すること（または維持および遵守に向けて努力すること）を重視しています。

2022年に私たちが行ったこと

当社は責任ある調達を推進するために取り組みを継続し、サプライヤー行動規範または契約条件に署名したサプライヤーの割合を100%に引き上げました。2022年、当社は2021年から2022年初頭にかけて買収した多くの新規サプライヤーにオンボーディングを行いました。これは、サプライヤーのスクリーニングの結果に反映されます。

今年は、サプライヤーのバリューチェーンにおける間接排出量（スコープ3）の詳細なデータを扱うために、さまざまなソリューションを展開しました。この取り組みは2023年も継続します。（以前のセクション・環境への影響・スコープ3の説明を参照）

2023年の計画

2023年は、責任ある調達プログラムを更新し、当社のフットプリントを改善するために、より詳細なスコープ3データで作業を継続します。そのためには、バリューチェーン全体でサプライヤーと積極的に協働する必要があります。

サプライヤーのスクリーニングは、今後もサステナビリティの実績を評価し、当社のサプライヤー行動規範を遵守するよう求めます。



Cory Moses



ケーススタディ： 草の根運動によるグリーン化

地域の取り組みによっても、**ポジティブな影響**がもたらされます。地域の取り組みを通じて、サステナビリティの考え方と文化をPermobilに組み込んでいます。

アジア太平洋地域のPermobilチームは、改善のために地域化された取り組みを開始することで、サステナビリティへのコミットメントを受け入れています。この従業員主導的な取り組みは高いエンゲージメント率を確保し、重点分野でのチームの実地体験を強化しました。

多くのチームは、コミュニティガーデンに重点を置き、緑がない場所にグリーンスペースの環境を作りました。オークランドでは、ニュージーランド産の木造プランターがタールマックで舗装された道路に設置され、果物や野菜の種子が植えられました。

Permobil日本は、オフィスビルの屋上のバルコニーに庭を追加しました。コリアンダー、ゴーヤ、トマトの収穫は期待を下回りましたが、チームワークと幸福度は大幅に向上しました。2023年の生産改善に向けた計画は既に整っています。

オーストラリアのチームは、コンポストとワームファームで成功しています。Permobilのオフィスで回収した有機廃棄物から10kgのコンポストを作り、それをガーデンやオフィスの植物に使用しました。

地域プロジェクトは、より大きな影響を与えることができる持続可能な行動を取るように同僚を鼓舞し、影響を与える直接的で具体的な成果があります。





監査

当社のオーナー、投資家は、Permobilが報告する必要がある2022年のサステナビリティ指標の監査を実施しました。監査には、CO₂排出量、責任ある調達、安全衛生、ジェンダーバランス、行動規範に関するPermobilのパフォーマンスが含まれました。Patricia Industries内のすべてのポートフォリオ企業は同様に監査を受けました。投資家は、報告プロセスを改善するために、傘下企業と協力し続けます。

2022年には、当社は報告、データ品質、社内プロセスに関する投資家主導のトレーニングセッションに参加しました。EU CSR 指令の今後の要件に備え、サステナビリティへの取り組みに対する高い基準を満たすために、2023年には報告とデータ品質のより深い見直しが行われます。

Hirokazu Nagaya



リスク管理

事業計画サイクルの一環として、当社は全社的なリスクマネジメント(ERM)プロセスを使用して年次リスク評価を実施します。全体的な目標は、現在のリスクエクスポージャーを理解し、それぞれのリスクを管理するための戦略を策定することです。

リスク評価には、環境リスク、気候変動、贈収賄と汚職、データプライバシーなどの分野が含まれます。主なリスクは、グローバルな全社的なリスクマップに統合され、影響と可能性を評価し、それぞれに対して緩和措置が設定されます。リスクは年間を通じて管理および監視され、リスク評価は年末までに取締役会によって審査されます。

気候関連の財務上リスク

2021年には、気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)ガイドラインに従って、気候関連の財務リスクの特定を開始しました。多くは、生産とサプライチェーンに関連しています。2022年、気候関連の財務リスクの評価はERMプロセスに統合されました。これらのリスクを軽減し、今後数年間でさらに発展する可能性がある他の可能性を特定するよう努力します。



EUタクソノミー規則 (経済活動の分類)

今年、Permobilが新たなEU規制下で、**タクソノミー**の資格および整合性について報告した最初の年です。

Permobilの活動のほとんどは、タクソノミーセクターの1つに含まれています。

タクソノミーに関する判断 — 当社の活動資格

Permobilの活動は、タクソノミーの「建設と不動産(7種類)」に含まれています。

この活動は「3.3輸送用低炭素技術の製造」とNACEコード「C.30.92自転車および無効車両の製造」から構成されています。Permobilは車いすを製造し、単に製品をレンタルまたは販売しているだけではないため、「6.4個人用の移動装置の操作」は関係ありません。

外部の収益を生まないバリューチェーン内の活動は開示**しません**。例えば、収益を生む活動に不可欠なプロセスには、自身の消費のための発電などがあります。これらは分類可能な活動として報告されず、独立ベースで外部の売上高を生じないため、当社の売上高KPIには含まれていません。

タクソノミー対象経済活動の割合(%)

売上高	78
CapEx(設備投資)	56
OpEx(事業運営費)	93

Permobilの活動は、最低限の安全対策に従って実施されます。Permobilは、当社のポリシーを通じて人権、労働者の権利、腐敗防止に取り組んでいます。(Permobilのポリシー章を参照のこと。)Permobilは、サステナビリティレポートと国連グローバルコンパクトへのレポートを通して、毎年、進捗状況を報告しています。

Permobilの活動は、技術的スクリーニング基準「3.3.eユーザーの身体活動、ゼロエミッションモーター、またはゼロエミッションモーターと身体活動の混合から生じる推進力を備えたパーソナルモビリティ装置」に従って、環境目標「気候変動緩和」に貢献しています。

Permobilの活動は、「著しい害を及ぼさない(DNSH)」の技術的スクリーニング基準を完全に満たしておらず、結果として、当社の活動のいずれもタクソノミーに沿っていません。



タクソノミー規則は、環境的に持続可能な経済活動のための分類システムを定めています。これは、より持続可能な経済に向けて投資を方向転換するための欧州委員会の行動計画の重要な構成要素です。タクソノミーは環境的に持続可能な経済活動のための分類システムであり、EUの気候目標に従って2050年までにカーボンニュートラルを達成するための重要なステップです。



Permobilポートレート： Gabrielle Wright

2023年3月のインタビュー

ギャビーの物語は、静かな決意と彼女の愛することに対する情熱についてです。12歳のとき、彼女は彼女が愛する競技用ネットボールをプレーしていました。しかし、彼女の人生は、100万人に1人の物語の一つになったときに、劇的な変化を遂げました。

普通の風邪がきっかけで、身体が過剰反応を起こし、自分を攻撃すると予測する人はいないでしょう。彼女は、100万人に1〜8人を襲う稀な合併症である横断性骨髄炎と診断され、車いすが必要になりました。

7年後、ギャビーは驚くほど穏やかにこれまでの経験を語ります。病気の意味を理解したとき、彼女が最初に考えたことは、もうネットボールをプレーできないということだったと語ります。もし彼女がプレーできないならば、愛するスポーツに関わり続けるための他の方法を見つける必要がありました。

数年以内に、ギャビーはネットボール審判として認定されただけでなく、車いすを初めて使用したネットボール審判になりました。明確に言うと、ギャビーはネットボールの審判であって、車いすのネットボールゲームの審判ではありません。

現在、彼女は大学級のネットボールを審判し、ニュージーランドのネットボード青少年委員会の1員でもあり、このスポーツに影響を与えるさまざまな問題について意見や洞察を提供しています。

車いす用のネットボールがないため、ギャビーは車いすレースに移行し、100m、200m、400mのトラックスプリントに専念しています。ニュージーランド国内にいる数人の車いすレーサーの目標は、2028年のロサンゼルスでのパラリンピック出場です。2024年のパリで開催されるパラリンピックは、資金や専門のコーチの不足という理由のために、準備期間が十分ではありません。

新進のパラリンピック選手としての活動、Netball NZ、友人たちとの付き合いの間に、彼女はオークランド工科大学(AUT)で建築学の学位コースを開始しました。高校時代、ギャビーはアートやデザインの楽しさを知り、それが都市環境や建物を改善したいという思いと結びついていったのです。建物はアクセス可能ですが、インクルーシブではない場合があります。比較的近代的な大学の建物であっても、講義ホールはアクセスは可能ですが、数歩の階段を避けるために時間のかかる迂回が必要となります。実体験のない設計。

すべての学生と同様に、ギャビーも大学生活を始め、初めて家族と離れて生活しています。ギャビーのSmartDrive/パワーアシストデバイスは、大学の生活をより快適にします。SmartDriveを使用することで、彼女は一日中キャンパス内で過ごすことができ、実際のトレーニングに必要なエネルギーも節約できます。スプリントレースのトレーニングは、丘の多いAUTキャンパスでの長い日々とは比較になりません。



詳細については、以下にお問い合わせください:

Marika Isberg
marika.isberg@permobil.com

Camilla Andersson
camilla.andersson@permobil.com

permobil